



主人公は誰か？

岐阜市教育大綱（素案）を考える

10月15日～11月16日まで「岐阜市教育大綱（素案）」のパブリックコメントが実施されています。パブコメの **意見募集目的** には ①時代を先取りした施策を推進し、高い学力の成果を上げてきました。と成果を肯定。 ②不登校児童生徒の出現率が全国より高い。自己肯定感・夢・目的のある子どもの割合が全国より低い。のは課題と記載。③尊い命がいじめにより失われた事案を機に、教育立市の深化にとりくむ。と立市必要を記載。④新型コロナ対策長期休業で、誰一人取り残さない教育、学ぶ意欲を育てる重要性が顕在化した。公教育の姿が変化した、と分析。すでに、目的記載で幾つか気になる点がありますが、これは後日に。

「いじめ」問題 大人の世界の反映では、職場の「パワハラ原因の自死」と

少し外れますが、有能な管理職は危機管理のできる人間と思います。危機に遭遇直面する事は毎日ある事ではありませんが、教科書にない経験値を超えた危機に直面した時に判断できる頭脳と心のある人間が有能な管理職、と思います。

時代が変化する時に、変化した時代の教育の先取りが、いつまで出来るでしょうか。経験値を超えた危機に直面した時に、自分の頭脳と心で考える事のできる人間教育が大切なのは、今も昔も同じでは。

岐阜市役所では細江市長時代に職員で毎年1人の自死がありました。柴橋市長になっても減少していません。大人の世界の自死が、中学生の自死と無関係とは思えません。

温かい対話のある学校を実現するために・・・では

教育大綱が教員目線で執筆されていないでしょうか。『教育の仕方論』ではなく、「子どもと共に育つ先生」が求められていると思えます。

『対話のある学校』を実現するために、どのように信頼感を創造するのか、その創造に必要なならば、どのように専門性を高める努力をするのか。と、文章の流れがなっていない。「基本方針の目指す学校・教職員の姿」の文脈が逆なように思えます。

ドキュメント映画 はりぼて

映画といえば、今は「鬼滅の刃」で持ちきりです。松原のりかず は、最近映画館へ足を運ばずにいましたが、田中議員に薦められて柳瀬の映画館へ「はりぼて」を見に出掛けました。この映画は、岐阜市議会の議会基本条例のきっかけの一つとなった政務調査費に関わる一連の事件の、更に一つ前の富山市議会の議員報酬増額事案とそれに関わる『政務調査費不適正請求』事件についての議員辞職などの2時間のドキュメント映画。

大変勉強に。富山市の地元チューリップテレビの記者二人の「もらい記事」でない独自取材に感銘。しかし、ラストに、テレビ記者の1人が取材現場から配転され、1人が退職するシーンが現出。退職する記者が「テレビが、変わってしまった。」と発言する場面と取材ポスターを剥がす場面が。富山市で、こんな結論があったのか！ と驚くと同時に、言い様の無い気持ち胸に残った映画。

伊藤左紀子さん追悼

10月24日(土)岐阜県民ふれあい会館で伊藤左紀子さんの追悼会が行われました。当日は10時から14時の間で、来場者の都合の良い時に、来て頂いて、左紀子さんの思い出話を交わして頂く企画でした。

松原のりかず は午後から伺いましたが、色々なお話をし、1時間がアット言う間に過ぎてしまいました。左紀子さんも、哲さんの裁判(自死を公務災害と認めよ)が終わり、一つの結論が出で、ホッとしたのかな・・・と、他の来場者とお話した事でした。

市議会 文教委員会開会(予定)

11月4日(水)

長良小プール建設工事の入札不調の調査結果が公表されると期待されます。10月20日の副市長との会話では、鋭意調査中と。



松原のりかず
☎058-253-2500

11月は『過労死等防止啓発月間』です。

過労死等防止対策 推進シンポジウム

過労死をゼロにし、健康で充実して
働き続けることのできる社会へ

2020年11月4日(水)

13:30~16:00

じゅうろくプラザ 5F 大会議室

主催 厚生労働省 後援 岐阜県

協力 過労死等防止対策推進全国センター

全国過労死を考える家族の会

過労死弁護団全国連絡会議

岐阜過労死をなくす会